

《担当者名》教授 / 柳川 芳毅

講師 / 木村 治 講師 / 鹿内 浩樹

【概要】

薬物療法学では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

本講義では、呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。

【学修目標】

呼吸器系疾患の病態に関する基本的事項を説明できる。

呼吸器系に作用する医薬品の薬理および薬物治療に関する基本的事項を説明できる。

消化器系疾患の病態に関する基本的事項を説明できる。

消化器系に作用する医薬品の薬理および薬物治療に関する基本的事項を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	呼吸器疾患の病態-1 病気がみえるvol.4 p92～152	上気道・下気道における感染症など各疾患の病態を説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -1～4	鹿内 浩樹
2	呼吸器疾患の病態-2 病気がみえるvol.4 p156～168, 208～221 薬がみえるvol. 3 p96～105, 116～132	閉塞性換気障害（気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患）の病態・治療について説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -1～3	鹿内 浩樹
3	呼吸器疾患の治療 病気がみえるvol.4 p190～200 薬がみえるvol. 3 p96～111, 133～136	拘束性換気障害（間質性肺炎）の病態・治療について説明できる。 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬について説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -1～4	鹿内 浩樹
4	消化管疾患の病態 病気がみえるvol.1 p2～57 薬がみえるvol. 3 p27～29	食道・胃・腸管の機能性および器質性障害の病態を説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -1,2,6～9	木村 治
5	上部消化管疾患の治療 病気がみえるvol.1 p58～63, 82～89, 94～99, 102～107 薬がみえるvol. 3 p30～42	胃食道逆流症について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 消化性潰瘍について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -1	木村 治
6	下部消化管疾患の治療 病気がみえるvol.1 p90～93, 142～145, 156～175, 薬がみえるvol. 3 p43～56	炎症性腸疾患について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 機能性消化管障害について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 痔について、治療薬の薬理作用、作用機序、薬物治療を説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -2,6,9	木村 治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	消化管疾患(便秘、下痢、悪心・嘔吐)の病態と治療 薬がみえる vol. 3 p8～26	便秘、下痢、悪心・嘔吐の病態について説明できる。 瀉下薬、止瀉薬、制吐薬の薬理作用と副作用について説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -7,8	木村 治
8	肝臓疾患とその治療 薬がみえる vol. 3 p59～87	肝炎、肝硬変、薬物性肝障害などの肝疾患の病態と薬物療法について説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -3	柳川 芳毅
9	胆道・膵臓疾患とその治療 薬がみえる vol. 3 p88～94	胆石症、膵炎などの胆道・膵臓疾患の病態と薬物療法について説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -4,5	柳川 芳毅
10	肝臓・胆道・膵臓に作用する薬物の作用機序 薬がみえる vol. 3 p59～94	肝臓・胆道・膵臓に作用する薬物の作用機序について説明できる。 《関連するモデルカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -3 E2-(4)- -4,5	柳川 芳毅

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

知識領域の期末定期試験（100%）。

試験終了後、正答を公開し問題の解説を行う。

【教科書】

病気がみえる vol. 1 消化器（MEDIC MEDIA）

病気がみえる vol. 4 呼吸器（MEDIC MEDIA）

薬がみえる vol. 3 消化器、呼吸器（MEDIC MEDIA）

「詳解薬理学」 広川書店

【参考書】

NEW薬理学 南江堂

薬物治療学 南山堂

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（80分）。

復習は、教科書、プリント、講義メモを活用し、学修を深めること（80分）。

【関連するモデルカリキュラムの到達目標】

E2 薬理・病態・薬物治療

(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬

【呼吸器系疾患の薬、病態、治療】1～4

【消化器系疾患の薬、病態、治療】1～9

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

木村 治（薬剤師）、鹿内 浩樹（薬剤師）

柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験から修得した事項をもとに、薬物療法学（呼吸器系・消化器系）に必要な知識について教育を行う。
創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。